

# いのち かけがえのない生命を守るために



全国で、痛ましい交通事故が発生しています。そして、その事故により、多くの人が負傷・死亡しています。

交通事故で尊い命が失われないようにするために、私たちに何かできることはないのでしょうか。

# 近年の交通事故発生状況と特徴

新聞やテレビのニュースでは、毎日のように交通事故についての報道がされています。大洲市でも横断歩道を渡っていた小学生の列に自動車が出っ込み、児童2人が負傷するという衝撃的な事故が発生しました。交通事故では、ある日いきなり自分の大切な人の命が失われてしまうことがあります。悲劇に見舞われないようにするために、私たちには、何ができるのでしょうか。

左の表1と表2は、最近6年間の県内の交通事故発生件数と死亡者数です。表1の交通人身事故発生件数は、20年から毎年減少

交通人身事故発生件数 (表1)

単位:件

年 別	愛 媛 県 内	大洲警察署管内
		20年
21年	8,904	293 (3.3%)
22年	8,188	249 (3.0%)
23年	7,903	262 (3.3%)
24年	7,108	219 (3.1%)
25年	6,692	206 (3.1%)

傾向にあります。大洲警察署管内でも、増減はあるものの、全体的には減少傾向にあります。

表2の交通事故による死亡者数では、50人台から90人台の間で増減を繰り返しています。大洲警察署管内でも、3人から6人の間で増減を繰り返している状態にあります。

平成25年の大洲警察署管内での交通人身事故は、平成24年と比較すると、発生件数で13件、死者数で1人、負傷者数では19人と、全てにおいて減少しています。

表3に示してあるように、平成25年中大洲警察署管内で発生し

交通事故死亡者数 (表2)

単位:人

年 別	愛 媛 県 内	大洲警察署管内
		20年
21年	81	6 (7.4%)
22年	64	4 (6.3%)
23年	91	3 (3.3%)
24年	56	4 (7.1%)
25年	70	3 (4.3%)

道路別発生状況 (表3)

道路別	区分	発生件数		死亡者数		負傷者数	
		25年	24年	25年	24年	25年	24年
国道	56号	78	97	1	2	99	126
	197号	19	10	0	0	25	14
	378号	11	3	1	1	13	2
	379号	5	5	0	1	9	5
	380号	1	1	0	0	1	4
	441号	3	2	0	0	4	2
県道	主要	7	19	0	0	10	22
	一般	20	25	1	0	21	28
市町村道		57	49	0	0	63	57
その他		5	8	0	0	5	9
計		206	219	3	4	250	269

た交通人身事故の特徴としては、全体の約57%にあたる117件が国道で発生しています。表を掲載していませんが、事故類型では車両相互の事故が151件発生し、そのうち追突事故が77件、出会い頭事故が31件発生しています。また、高齢者の事故も103件発生し、そのうち2件は死亡事故でした。

事故原因では、前方不注意や動静不注意、安全不確認などの初歩的なミスが全体の約62%もあり、少し注意することで防ぐことのできる事故が、数多く発生しています。

愛媛県警察では、平成25年に「交通死亡事故抑止アンダー150」を目標に交通安全運動を展開していましたが、残念ながら目標を達成できませんでした。

愛媛県の全交通事故死亡者に占める高齢者の割合は約63%で、全国ワースト9位となっています。

また、車に装着するチャイルドシートの使用率は、全国平均を大きく下回り約51%で全国ワースト7位でした。

現在、大洲市では、行政機関や交通安全協会、安全運転管理者協議会などの交通安全推進団体と力を合わせ、学校、企業などの関係機関や団体と緊密に連携し、安全運転の意識や交通マナーの向上、高齢者の交通事故防止対策、総合的な自転車対策などの効果的な諸施策を推進し、「交通事故のない、安全で快適に暮らせるたいき地域」の実現を目指しています。

みなさんも、交通事故の実態を知り、それぞれの家庭や職場、地域などで交通事故防止につとめてください。



## 家庭で取り組む

各家庭で取り組むことのできる交通安全対策として、基本的なシートベルト着用とともに、幼児用補助装置（チャイルドシート）の確実な使用があります。

平成12年4月1日から施行された改正道路交通法により、チャイルドシートを使用しないで6歳未満の幼児を乗車させて自動車を運転することを禁じています。この規定に違反した場合、罰則はありませんが行政処分の基礎点数が1点付加されます。

仮に幼児を抱きかかえて乗車して事故に遭遇した場合、両腕には



幼児の体重の数倍の重力がかかる

といわれています。かわい子どもの命や家族の安全を守るためにも、チャイルドシートの使用を心掛けましょう。また、チャイルドシートを車

に取り付けていても、正しく取り付けられていないければ効果が半減してしま

う可能性があります。取扱説明書をよく読み、正しく取り付けましょう。

また、大人と子どもが道路を歩く時にも注意が必要です。車道側



## 学校で取り組む

市内の保育所や幼稚園、小中学校では、地元の駐在所や大洲警察署の警察官、交通安全協会の職員により、「交通安全教室」が開催されています。

この教室では、安全な横断歩道の渡り方や見通しの悪い交差点での安全確認の方法などの指導が行われています。そのほかにも、自転車での横断歩道の渡り方や信号機のある交差点の渡り方などの指導も行われています。

市内にある高等学校では、オートバイで通学する生徒を対象にした、「交通安全教室」や「二輪講習会」が行われています。講習会は、大洲警察署や交通安全協会、大洲自動車学



校に講師を依頼し、法令の講義や安全講習、実技指導が行われています。

オートバイで交通事故に遭った場合、不安定な二輪車の特性により、転倒する機会が多く、また、体が露出していることから、四輪車と比較して負傷する確率が格段に高くなります。

転倒した時の被害軽減対策として、正しいヘルメットの着用はもちろんのこと、できるだけ体表を露出させない服の着用や、手袋をつけるなどの対策が必要です。また、自動車の運転手から見えにくいこともあり、より一層の防衛運転を心掛けて事故に遭わないように注意する必要があります。



## 地域で取り組む

地域では、児童生徒の登校時に、PTAや各種団体により、あいさつ運動や見守り運動が行われているところがあります。

あいさつ運動は、登校時に交差点などの危険ポイントで、あいさつを交わしつつ安全確認と交通マナーの指導を行っています。

見守り運動は、スクールバスの乗車場所での見送りや、集団登校の列の先頭や最後尾と一緒に歩くことで、子どもたちが交通事故に巻き込まれることを防ぐとともに、通学時の安全を確保しています。

あいさつ運動や見守り運動に協力している人のなかには、地域の



子どもたちを地域で守ろうと思っ  
ている人や、子どもたちと接する  
ことが元気の源になっている人も  
います。

このような運動により、地域の  
つながりや絆が今まで以上に強い  
ものになるはずです。



菅田小学校校外指導担当委員  
委員長 西村幸治さん

菅田小学校では、校外指導の一環として、毎週水曜日の朝、公民館前と国道の交差点で子どもの見守り運動とあいさつ運動を行っています。

地域の見守り隊の人とPTA役員、校外指導担当委員約50人が協力して、当番制で実施しています。

この運動をすることで、登校時の安全確保だけでなく、きちんとあいさつできる子どもたちが増えていくと実感しています。

## 企業で取り組む

各企業では、社員教育の一環として、交通安全活動や交通安全教育、飲酒運転防止対策に取り組んでいます。

交通安全活動では、年末年始の事故防止活動や無事故・無違反運動などに、会社内で取り組まれています。また、地元の警察署や交通安全協会と連携して、地域の交通安全運動などに積極的に参加しています。

交通安全教育では、運転適性診断の実施や、外部から講師を招き、交通安全講習会を実施しています。

飲酒運転防止対策では、毎日の



始業点検時にアルコールチェックによる検査を行い、酒酔い・酒気帯び運転の撲滅を目指しています。

このような日々の取り組みが、安全意識の高揚と事故防止につながります。



四国電力(株)大洲営業所  
所長 堀内浩司さん

四国電力(株)では、全国安全週間に合わせ、毎年7月1日から10日までの間、社員の安全意識の高揚を図るため「四電グループ安全強調旬間」を実施しています。当営業所では、6月30日(月)に大洲警察署矢野交通係長を講師に招き、交通安全講演会を実施しました。

そのほか、安全運転訓練や危険予知訓練、交通事故裁判の傍聴などの取り組みを通じて、社員の交通安全意識の高揚と交通事故・交通違反防止に取り組んでいます。



## 大切な人の笑顔を絶やさないために



交通課 交通機動係  
篠原巡查部長

今年の4月に、大洲警察署に赴任した篠原です。私は、警察官となって14年目になりますが、悲惨な交通事故を無くしたいという思いから交通課の仕事を選び、これまで11年間を白バイ隊員として勤務してきました。

私が大洲警察署に赴任して3カ月が経ち感じたことは、大洲・喜多地区の人の交通マナーが、これまで勤務した東・中予と比較して非常に良いことです。

例えば、大きな道路を走っていても、横道から合流してくる車は、よほど車間距離があいていないと進入しないで待つ人がほとんどです。慎重な運転を心掛けている表れだと感じています。

運転マナーのよい大洲のみなさんですが、非常に残念なデータがあります。大洲警察署管内における交通事故発生件数は、県内の交通事故発生件数の約3%です。しか

し、酒酔いと酒気帯びを合わせた、飲酒運転の摘発件数は、県内の約10%を占めています。お酒に寛大な土地柄なのかもしれませんが、飲酒をしての車の運転は重大事故に直結します。また、酒気帯び運転の罰則は3年以下の懲役または50万円以下の罰金、酒酔い運転の罰則は5年以下の懲役または100万円以下の罰金と非常に厳しくなっています。場合によっては、危険運転致死傷罪が適用され、最長20年の懲役を科せられることもあります。

大洲警察署管内では、今年すでに2人が交通事故の犠牲になり、命を落とされています。車を運転する時には、気持ちと時間に余裕を持ち、交通ルールとマナーを守り、思いやりの心を忘れずにハンドルを握ってもらえれば、交通事故を減らすことができると思います。

安全運転をお願いします。大切な人の笑顔を絶やさないために。



## 被害者・加害者にならないために

1929年11月に、アメリカで発表された「ハイインリッヒの法則」があります。

この法則は、1件の重大な事故や災害の裏には29件の軽微な事故や災害が存在し、そして事故や災害には至らなかつたもののヒヤリとした、ハツとした事例が300件発生しているとされるものです。重大事故や災害の防止のためには、それらの発生が予測されたヒヤリ・ハツの段階で対処することが必要です。そのためにも、日ごろから交通ルールを守ることが、被害者にも加害者にもならない一番の方法です。

しかし、交通安全は、運転者だけ、歩行者だけが気をつけるのではなく、全ての人が気をつけなければ、交通事故を減らすことはできません。交通死亡事故に遭った被害者も事故を起こした加害者も、どちらの人生も取り返しがつきません。

かけがえのない命を守るために、みなさん一人ひとりが交通ルールを守り、安全な地域づくりを進めていきましょう。

## 大洲市消防団へ総務大臣から感謝状 新制度創設で団員数増加

消防団員数を増やした大洲市消防団（中川一夫団長・団員1471人）など全国19消防団へ、総務大臣から感謝状が贈られました。

感謝状贈呈式は、6月24日（火）総務省総務大臣室であり、大洲市から出席した中川団長へ新藤義孝総務大臣から感謝状と記念品が手渡されました。

今回の感謝状贈呈は、全国的に団員数の減少傾向が続くなか、各団の取り組みで団員を相当数増やしたことによるもので、大洲市消防団は、消防活動経験者を活用する制度を今年度から導入し、前年度よりも団員を44人増やしました。



感謝状を受け取った中川団長（写真左）と新藤総務大臣

感謝状を受け取った中川団長は、翌25日（水）に市役所を訪れ、清水市長に総務大臣感謝状の受領報告をし、「今回の感謝状受領は、機能別消防団員制度によるところが大きい。制度化を認めていただいた市に感謝するとともに、団員にも感謝したい。これからも団員確保に力を注ぎたい」と抱負を語りました。

これを受け、清水市長は「団員確保が困難ななかで、今回の感謝状受領はたいへん喜ばしい。団員のライフスタイルもさまざまなので、時代にあつたものにしなればならない」と応えました。

これを報告する中川団長（右から2人目）



清水市長に報告する中川団長（右から2人目）

## 地域医療を守るために ～市立大洲病院創立50周年・新築20周年記念式典および祝賀会～

6月28日（土）、市立大洲病院創立50周年・新築20周年記念式典および祝賀会が、リジェール大洲で開催されました。

病院開設者の清水市長は「市立大洲病院は、国保病院として開院した昭和22年から数えると67年になる。この長い間、時代の要請と住民ニーズに対応した適切な医療を提供してきた。今後も医療の質の向上と健全経営に取り組みたい」とあいさつしました。

谷口嘉康病院長は「当院はこの10年間、国の医療費抑制策や慢性的な勤務医不足などに対処し、当地域に質の高い医療を提供すべく、病院機能の充実強

化を図ってきた。これからも、患者さんにとって『かかりたい病院』医療従事者にとって『働きたい病院』そして地域にとって『なくてはならない病院』となるよう、職員一丸となって誠心誠意努めたい」と決意を語りました。

また、来賓の愛媛大学大学院医学系研究科消化器・内分泌・代謝内科学の日浅陽一教授は「近年、医師不足が深刻化している。若い医師は、都市部や大病院での勤務を希望する者が多い。地方の中小病院は、大病院との連携が課題となっている」と地方の病院が抱える課題について話されました。





## 大洲シニアFCが全国大会出場

4月20日(日)、高知県で開催された第13回全国シニア(50歳以上)サッカー大会四国大会において、大洲シニアFCがみごと優勝し、全国大会への切符を手に入れました。6月12日(木)、メンバー6人が市役所を訪れ、清水市長と二宮教育長に四国大会の優勝と、6月28日(土)から30日(月)まで北海道帯広市で行われる全国大会出場の報告を行いました。

大洲シニアFCは、市内在住者や出身者などのサッカー愛好者で、2000年に「大洲シニア40FC」の名称で発足しました。現在は、サラリーマンや自営業者、公務員など、高校生の時にサッカーに取り組んでいた20人のメンバーが、



県シニアリーグなどで年間約15試合をこなしています。

上杉茂監督は、「今回の出場で、3年連続7度目の出場となる。静岡岡根藤枝市であった昨年の大会では、2分け1敗の成績で残念ながら予選リーグ敗退だった。今年は、サッカーワールドカップが行なわれる記念すべき年でもあり、ぜひ決勝トーナメントに進みたい」と決意を語りました。

帯広市で行われた全国大会では、兵庫県、三重県、茨城県の各代表チームと予選リーグを戦い、1点を争う白熱した試合を展開しました。残念ながら0勝3敗で、悲願の決勝トーナメント進出はかきませんでした。



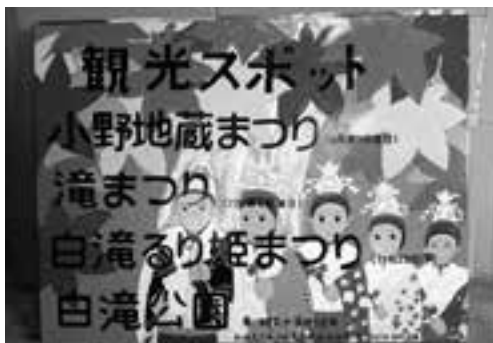
## JR伊予白滝駅の名所案内板がリニューアル

JR伊予白滝駅に、長浜高等学校美術部員11人によりデザイン、製作された、新しい名所案内板が設置されました。

新しい案内板は、白滝にまつわる伝説をイメージして作られていて、7月14日(月)から白滝を訪れるみなさんを、温かく出迎えています。

JR四国では、7月10日(木)にリニューアルした名所案内板の除幕式と、長浜高等学校美術部のみなさんへの感謝状の贈呈式を予定していました。しかし、台風8号の接近により駅での式典は中止となり、後日長浜高等学校で感謝状の贈呈が行なわれました。

JR伊予白滝駅ではこのほかにも、白滝地区の観光行事に取り組みられている白滝商工観光連盟や白滝公民館のみなさんが作られた、陶芸品「夢わらべ駅長」や白滝の水を引き込んだ「ミニチュアの滝と池のモニュメント」、白滝るり姫祭りなどの写真展「ステーションギャラリー」なども見ることができます。





## 雨にも泥にも負けられない戦い ～第20回どろんこミニバレー大会～

今年で20回を迎えるどろんこミニバレー大会が、白滝公民館柴分館前の水田で開催されました。

参加した23チーム238人の選手たちは、泥に足をとられながらも、懸命にボールを追いかけていました。

当日は雨のために気温が低く、試合を終えた選手たちは、会場に用意された温かい豚汁とたき火で体と心を温めていました。



## 優勝を目指した熱い戦い ～分館対抗レクバレー大会～

河辺中学校体育館で、分館対抗レクバレー大会が開催されました。

今年は、男子7チーム女子5チーム計94人が参加し、男子2ブロック女子1ブロックで、それぞれ総当たりリーグ戦を行いました。

選手のみなさんは、サッカーワールドカップの日本代表の初戦を気にしながらも、熱戦を展開しました。



## 体験を通して農業を知る ～三善小学校どろんこサッカー大会～

子どもたちに自然との触れ合いを通じて、米作りや農業の大変さ、食べ物大切さを学ぶことを目的に、どろんこサッカー大会が行われました。

当日は、全校児童34人とオーストラリアからの体験入学生2人が、泥だらけになりながらボールを追いかけていました。大会終了後には、秋の収穫に向けて全員で田植えを体験しました。



## 災害に強い地域づくり ～大和地区自主防災組織一斉避難訓練～

地域ぐるみで防災対策にあたることを目的として、大和地区で一斉避難訓練が行われました。

サイレンを合図に各自一斉に避難行動を開始し、大和小学校に集合しました。

その後、参加した341人は、消防署員などの指導のもと各種講習などに取り組み、さまざまな災害への対応を学びました。



## 大洲の食育

保育所での食育  
 ↳ 肱北保育所



肱北保育所では、大洲農業高等学校との交流が盛んです。昨年度は、例年行われていたさつまいもの苗植えや収穫に加え、幼児を対象にした食のパネルシアター、年長児とのおにぎりづくりが実施されました。

パネルシアターでは、食材の働きによって赤・黄・緑に色分けされた3つの基礎食品について教えてもらい、いろいろな食材をバランスよく食べることの大切さを知りました。

また、大洲産の「にこまる米」を使用したおにぎりづくりでは、調理をする楽しさ、みんなで食事をする嬉しさなどを感ずることができました。

このようなさまざまな経験を重ねながら、子どもたちの食への関心を深めていきたいと思えます。



## 大洲市消費生活センター通信

楽しい話に潜む危険  
マルチ商法に気をつけて

「楽に稼げるいい話がある」「人を紹介するだけで月収百万円も夢じゃない」などと、友人知人から声をかけられたことはありませんか。

今回は、マルチ商法（MLM）や、ネットワークビジネスという言葉で知られる“連鎖販売取引”についてご紹介します。

## 【連鎖販売取引の特徴】

先述のセールストークを受けた消費者が、入会金や商品代金を支払って組織に加入します。入会後は、自らも同じように商品販売や組織加入の勧誘を行い、その売り上げや紹介料が消費者や組織の収入となります。

「儲けたお金ですぐに返せる」と借金をさせられたり、自分自身が事業者（加害者）となることもあります。その結果、人間関係を壊してしまうなど、非常に問題の起こりやすい商法といえます。

## 【契約をやめたいときは】

楽して簡単に稼げるような、うまい話はありません。まずは、契約前によく考えましょう。

もし、契約をしていても、法定書面を受け取った日（商品の引き渡しがある場合はその日）から数えて20日間以内であれば、クーリング・オフが可能です。

また、連鎖販売取引には中途解約の規定もあります。その際、条件を満たせば商品販売契約を解除することもできます。

お困りの際には、消費生活センターなどにご相談下さい。

## 【問い合わせ先】

大洲市消費生活センター  
 ☎24-1790

## 【相談受付時間】

午前9時～正午、  
 午後1時～5時  
 （祝日除く月～金）



トラブルは若者だけでなく  
 高齢者や主婦の方にも多いです

大洲市を守る消防団員の活動や取り組みをシリーズで紹介します。



## 菅田・大谷分団が県大会へ 消防操法大洲喜多地区大会へ

第29回愛媛県消防操法大洲喜多地区大会が6月1日(日)、大洲市若宮の五郎大橋上流河川敷グラウンドで開催されました。

この大会は、2年に一度開催される愛媛県消防操法大会の予選も兼ねていて、消防団員の消防操法技術向上はもとより、厳正な規律やチームワークを身につけるとともに、士気高揚により、地域防災体制の強化を図ることを目的として行われています。

当日は、大洲市および内子町の各消防団を代表し、「ポンプ車操法の部」に5チーム、「小型ポンプ

操法の部」に11チームが出場しました。各チームが、数ヶ月間にわたる訓練の成果を発揮し、操法技術を競い合いました。

部門優勝した菅田分団および大谷分団は、8月3日(日)に松山市の愛媛県消防学校大規模訓練場で開催予定の、第28回愛媛県消防操法大会へ出場します。

この2チームは、現在県大会に向けてさらなる訓練を重ねています。上位成績を収められるよう、大いに期待したいところです。

### 大会結果（入賞のみ）

#### 【ポンプ車操法の部】

優勝 菅田分団 (大洲市)

準優勝 肱北分団第1部(大洲市)

#### 【小型ポンプ操法の部】

優勝 大谷分団 (大洲市)

準優勝 満穂分団 (内子町)

第3位 新谷分団第3部(大洲市)

第4位 五十崎分団第1部 (内子町)

(内子町)

## 文化財



大洲城 台所櫓  
国指定重要文化財(建造物)  
大洲市所有

大洲城内に現存する4棟の櫓の一つで、渡櫓で天守に連結されている櫓です。創建された年代は江戸前期頃と考えられますが、現在の櫓は安政4年(1857)の大地震により大破したため、安政6年(1859)に再建されたものです。

台所櫓は、その名のとおり台所の機能が付属した珍しい櫓です。籠城時には城兵のための台所として使用されるため、1階の3分の1が土間となっているほか、排煙用の格子窓なども取り付けられています。

櫓の大きさは6間×4間(天守は6間×7間)と、かつて大洲城に存在した櫓の中では最大規模のもので、小天守とも呼ぶべき様相を呈しています。

(昭和32年6月18日指定)

## 野鳥



カケス(椋鳥)  
スズメ目 カラス科  
大きさ33cm

暑い日差しを遮る里山で「ジャァー、ジャァー」と濁った声を聞くことがあります。声の持ち主を、大洲地方では「ガイス」と呼んでいます。他県でも「ガエス」とか「ガース」などと言われているようですが、どの方言も鳴き声からきています。

カケスはカラスの仲間、ハトくらいの大きさです。頭はごま塩模様、体はブドウ色、翼のまん中はカワセミのように青く、翼の先と尾羽は黒というカラフルな色合いの鳥です。雑食性で普段は林の中でドングリなどを食べていますが、小鳥の雛を襲うため巣に近づき、親鳥から激しく威嚇されている姿を見かけることもあります。

また、冬には群で生活をして周囲を警戒することで、自分たちの身を守っています。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④



## 大洲藩主加藤家の文化財（第参幕）

加藤泰興（かとうやすおき）



大洲藩2代藩主加藤泰興は、慶長16年（1611）加藤貞泰の嫡男として伯耆国米子（現在の米子市）に生まれました。

元和9年（1623）、父貞泰が亡くなると、13歳で大洲藩6万石を相続します。しかし、寛永11年（1634）弟直泰との間で分知（領地を分けること）を巡る騒動が勃発します。

この騒動の原因は、貞泰の遺言を基につくられた「御袋文」と呼ばれる文書の有無で、両者とも譲らないまま5年が過ぎた寛永16年、加藤家親族代表の調停によってようやく解決し、直泰を藩主とする新谷藩が誕生しました。

若くして藩主となった泰興ですが、積極的に藩の基盤強化を行っています。中でも大洲藩の飛地だった風早郡・桑村郡と松山藩だった伊予郡の領地交換を成功させたほか、松山城、高松城、丸亀城の

在番を務めると、その時に改易となった藩の家臣で優秀な人物を召し抱えるなど、家臣団の充実を図っています。

また、泰興は槍の名手として知られ、槍術をより深く極めるため禅道を学ぶなかで、平戸藩主松浦鎮信を介して知った盤珪永琢に出会います。盤珪の教えに深く心酔した泰興は、盤珪を大洲へ招き、寛文9年（1669）に富士山に如法寺を建立します。

延宝2年（1674）、家督を孫の泰恒に譲った泰興は、3年後大洲の下屋敷において67歳で亡くなりました。

如法寺にある泰興の墓所には、五輪塔の前に亀扶（亀の甲羅の上に石碑が載ったもの）が配置され、この碑文には、「予州如法寺中興碑」として泰興の功績が記されています。



如法寺にある泰興の墓所

## 大洲商工会青年部 大洲ご当地クイズ

大洲肱川のうかいは、日本三大うかいの一つです。6月1日(日)にうかい開きをして、9月20日(土)まで観光客や地元の人を楽しませてくれます。なんといっても肱川のうかいの魅力は、鵜船と屋形船の並走距離が長いことや、うかいの様子が近距離で見られることです。

昨年、あさもやのうかい案内人の解説を聞きながら、青年部メンバーでうかいを楽しみ、うかいに関するクイズを作成しました。

## 【今月のクイズ】

大洲肱川のうかいは、日本三大うかいの一つです。日本三大うかいに選ばれている理由は何でしょうか。

- ① 歴史が長い
- ② 鵜が多い
- ③ うかいを見る屋形船が多い
- ④ 観光客が多い



## 【先月号のクイズの解答・解説】

国立大洲青少年交流の家に、カヌーは何艇あるでしょうか。

- ① 約100艇
- ② 約200艇
- ③ 約300艇

解答 「③約300艇」

解説 実は、国立大洲青少年交流の家は、カヌー保有数日本一です。川で使用するカヌー以外にも、シーカヤックという海で使用するカヌーも保有しています。

国立大洲青少年交流の家では、カヌーで大洲の素晴らしさを感じてもらおうと、親子で体験できる「ふれあいカヌー体験」を実施しています。



※今月のクイズの答えは、広報大洲9月号に掲載します。